



発寒ひかり
保育園だより

2025年
2月号

巻頭言

くりファミリーの子どもたちは、小さい子が大好きです。「みんなとおなじ、おねえさんごはんになったね」「ハイハイできるようになったね」と子どもたちみんなで小さい子の成長を見守っています。時には「ミルクをのませたい」「ごはんをたべさせたい」と保育士と一緒に食事のお手伝いをすることもありませす。

ある日の給食の時間、葉物野菜が苦手なRちゃん（ことり組1歳児）は、保育士が「一口食べてみる？」と聞いても首を振るだけの日が続きまました。するとSくん（ばんび組4歳児）が「ぼくがたべさせてみようか？」とRちゃんの口に野菜の入ったスプーンを近づけると、Rちゃんはパクつと野菜を食べ、その後は自分で野菜を食べるようになつたのです。その姿を見てSくんはとても喜び、そして「ぼくがたべさせると、たべてくれたね」と誇らしげな表情をしていました。

その後もRちゃんが葉物野菜を食べないときは、Sくんが飛んできて食べさせてくれ、RちゃんもSくんが来てくれることで笑顔で食事をするようになりました。

異年齢保育の中で小さい子が大きい子にお世話をされ成長するだけでなく、大きい子が小さい子と触れ合うことで自信となるなど、相互成長が見られる場面がたくさんあります。少子化が顕著に表れ家庭や地域だけでは子ども同士の関わりが少なくなつている現在、当園の異年齢保育の中で成長する子どもたちの姿を大切にし、そばで見守つていきたいと思ひます。

副主任 くりファミリー担任 笛木 菜未